

令和4年度 那覇地区中学校新人大会 ガイドライン

2022/11/7 時点

本ガイドラインの共通の留意事項について

令和4年度那覇地区中学校新人大会開催時における、大会、監督会や抽選会等を行う場合は

① 同行者参加名簿 ①応援者名簿(専門部長保管 2 週間)※参加日ごとに提出

②参加同意書(学校長保管) ③チェックシート(学校保管 2 週間)の提出をお願い致します。

※チェックリスト、陰性証明は提出なし。大会関係者(役員・審判等)は大会本部にて同行者参加名簿を作成し、記入する。

＜参加者の安全を最優先にした行動を＞

那覇地区中学校新人大会の開催にあたっては、何よりもまず参加者の人命や健康を最優先にした計画・実行を行います。感染予防に向けて取り得る十分な

環境が整えられない場合は、参加チーム・大会関係者の安全を第一にして、延期や大会中止の判断を積極的に行います。

＜不当な扱い・差別等を許容しない＞

感染者やその関係者(濃厚接触者を含む)、診療に携わった医療機関・医療関係者その他の対策に携わった方々に対する誤解や偏見に基づく差別、誹謗中傷を一切許容せず、断固たる姿勢で臨みます。

大会参加者に新型コロナウイルスの感染者が発生した場合の個人情報等の取り扱いには十分配慮してください。SNS 上での感染者等に対する差別的な発言・態度にも絶対に許さない姿勢を、全専門部で再度、周知徹底してください。

＜那覇地区中学校新人大会の観戦についての考え方＞

大会の開催については、感染リスクへの対応が整わない場合は延期や中止を検討します。

参加者数は、沖縄県イベント開催制限等について(2022.9.8)・今後の県内の感染者数の動向(医療逼迫状況・蔓延防止措置等重点措置の実施など)を参考に、収容人数をそれぞれ(大声あり50%)(声無し100%)を基本とする。しかし、施設に応じて状況が異なるため、それぞれの競技や会場に応じた観戦対策を必要とする。学校施設の場合は、観戦についても学校長へ必ず許可を取ることとする。

※11/15の専門部長会・理事会にて、決定とする

※選手1人に2人までの応援や3年生部員の観戦可などが考えられる。

また、大会参加者(参加チーム・大会関係者・競技役員等も含む)は移動中や**昼食時**の感染リスク対策をしっかりと行うことが求められます。

なお、大会期間は、**各会場において**同行者参加名簿を各チームから提出いただき**毎日回収し、大会終了後は専門部長が集約**します。

会場内への出入りは、登録選手・登録外部員・マネージャー・当該校管理職・顧問・副顧問・引率者・部活動指導員・外部コーチ・大会役員・審判員・許可された保護者のみとします。

※会場や競技によって応援に関する制限は異なる場合もあり得ます。

＜那覇地区中体連新人大会参加についての確認事項＞

1. 「陽性者」保健所が指定する解除日まで、大会に参加できない。

陽性と判断された場合でも、7日間経過し（症状軽快後24時間）8日目から参加可能

2. 「濃厚接触者」と判断された場合は、5日間経過し6日目から参加可能。または2. 3日目に医療用抗原キットで検査を行い、両日陰性の場合は3日目から参加可能。

3. 「発熱・風邪症状が見られる場合」は、医療用抗原検査キットで陰性または医師の指示を仰ぎ判断する。学校長への報告、判断含む

4. 保健所等による濃厚接触者の特定・行動制限を行わない地域について、同居家族以外の感染者と接触した者が登校可能となった場合は、部活及び大会に参加できる。

①出席停止・学級閉鎖・学年閉鎖・学校閉鎖に該当する該当者は上記、那覇地区中体連の基準に準ずること。※陽性者・濃厚接触者・接触者それぞれ上記に準ずる。

5. 部活動に参加する生徒や顧問等が感染者・濃厚接触者に特定された場合、確実に学校長へ報告し、各市町村教育委員会へ一報をいれ、その後の対応について指示を仰ぐこと。顧問で判断をせず、確実に学校長と相談し、那覇地区新人大会参加について確認を行うこと。

6. 感染者又は濃厚接触者が多数と判断される場合は活動を停止し、那覇地区新人大会への参加も自粛する。※多数の解釈については、市町村によって異なるため、市町村の方針を踏まえた各学校学校長の判断とする。

7. 部活動に参加する生徒や顧問等が陽性者・濃厚接触者に特定された場合、確実に学校長へ報告し、各市町村教育委員会へ一報をいれ、その後の対応について指示を仰ぐこと。顧問で判断せず、確実に学校長と相談し、那覇地区中体連主催大会（地区新人大会）参加について確認を行うこと。

8. 陽性者又は濃厚接触者が**多数**と判断される場合は活動を停止し、那覇地区中体連主催大会（新人大会）への参加も自粛する。※多数の解釈については、市町村によって異なるため、市町村の方針を踏まえた各学校学校長の判断とする。

濃厚接触者とは(2022, 7, 25：沖縄県) 〈追記〉

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 患者と同居あるいは長時間の接触があった方(同じ車や飛行機などに乗った場合も含む)2. 手の届く距離(1メートル程度)で、マスクなどの感染予防策なしで「患者」と15分以上居た方(マスクをしていても換気の十分でない部屋に一緒にいた場合も含まれる)3. 適切な感染防護なしに患者を診察、看護もしくは介護していた方4. 患者の気道分泌液(鼻水、だ液)、もしくは体液(排泄物、嘔吐物)等の汚染物質に直接触れた可能性が高い方 |
|--|

※同居家族が感染した場合は、濃厚接触者となる。

那覇地区中体連事業実施時の感染防止策について

1. 事前の対応

各専門部は、大会会場において感染防止対策に向けた準備を行うとともに、参加者に対し、感染防止のために参加チーム全員が遵守すべき事項を明確にして事前に連絡し協力を求めてください。

各会場及び参加チームはそれぞれ感染対策責任者(学校職員)を任命し、事前、大会当日、事後に専門部長・会場責任者と連絡を取り合える環境を構築してください。

参加者への連絡事項

各専門部は、大会参加者に対して事前に求める感染拡大防止のための措置として、以下の項目が挙げられます。各専門部長は、適切な手段により参加者やチームの感染対策責任者に事前に連絡をとり、以下の項目を伝えてください。また運営に関わる大会役員、審判員、その他関係者全員に対しても同様に事前伝達してください。

なお、以下の項目の実行が難しいと判断した場合は、那覇地区中体連事務局に報告してください。

(1) 大会参加申し込みについて

- ① 生徒と保護者へ本ガイドラインの感染防止対策等を理解していただき、同意書を学校長へ提出していただく。
- ② 大会参加は生徒の意思と保護者の合意によるものであるので相談の上決めていただく。
- ③ 同意書は各学校で大会終了後1ヶ月保管すること。

(2) 大会前と大会開催時について

- ① 大会開始日2週間前から、息苦しさ(呼吸困難)・強いだるさ(倦怠感)・高熱等の症状があった場合は、かかりつけ医等に相談し受診すること。
- ② 大会開始日2週間前から、発熱等の風邪症状がある場合は、部活動を休み外出を控えること。
- ③ 上記①・②の症状が出た生徒においては、活動の中止と健康観察を行い、症状が治まった時点で活動を再開する。活動を再開する前に、担当教諭と当該生徒は、当該校の校長へ報告すること。

(3) 参加可能な健康状態について

①〈那覇地区新人大大会参加についての確認事項〉に準ずる。本マニュアル2P

(4) 大会当日について

- ① 大会当日、生徒に発熱や風邪等の症状者がでた場合は大会への出場は認めない。
その場合、保護者へ連絡し早急な帰宅を促すこと。当該校関係者や専門部長、感染対策責任者は生徒の個人情報等の取り扱いには十分注意すること。

(5) 以下の事項に該当する場合の自主的な参加の見合わせ(大会当日に書面にて確認)

- 陽性者・濃厚接触者で保健所が指定する解除日まで経過していない
- 接触者で陰性(PCR検査・指定簡易キット)が証明されていない
- 体調が良くない場合(例:発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合)
- 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方(発熱・風邪症状)がいる場合
- PCR検査を受けての結果待ちの状態

- 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

※本人、顧問での確認だけでなく顧問・各学校養護教諭・学校長で確認しての判断になります。

(6) 大会参加者全員のマスク着用

- ※ 飛沫感染防止のため、基本的には常時マスクを着用する。しかし、熱中症等の健康被害が発生する可能性が高いと判断した場合は、マスクを外し他者との間に十分な距離を保つ。

(7) 那覇地区中体連が示す注意事項の遵守

(8) 大会終了後に新型コロナウイルス感染症を発症した場合の速やかな報告

(9) 大会中に誰とどのくらいの距離で何分くらい話したか、その時にマスクを着用していたかなど、他人との接触状況の記憶(感染者発生発覚の際の濃厚接触者特定に役立ちます)

※大会参加者全員に提出していただく健康チェックシートには以下の事項を記載していただきます。

① 氏名、生年月日、住所、連絡先(電話番号)、保護者のサイン、押印

※ 参加チーム用と大会関係者用があります。

※ 個人情報の取扱いに十分注意する

② 大会開始日2週間前から当日までの体温チェック

●家族の発熱風邪症状 ●PCR 検査を受けている結果待ち

●陽性者 ●濃厚接触者 ●接触者(チェックシート⑩に確実に記入)

③ 大会開始日2週間における以下の事項の有無

● 発熱(微熱を含む)

● 咳(せき)、のどの痛みなどの風邪症状

● だるさ(倦怠感)、息苦しさ(呼吸困難)

● 臭覚や味覚の異常

● 体が重く感じる、疲れやすい等

● 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無

● 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

● PCR 検査を受けている結果待ちの状態

● 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間が必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

2. 各会場における感染防止対策

各専門部は、以下の点に留意して会場の設営・運営を行ってください。

(1) 諸室・テント等

各会場において、以下の対応を行ってください。

● 各部屋にアルコール消毒液を設置する。

● 全てのドア及び窓を開け、3つの密が発生する環境を阻止し、ドアノブ等を介した接触感染を防ぐ。

● 飲料用、暑熱対策、アイシング等については、事前に個人用を準備する。

※ ドリンクを冷やすためのクーラーボックスは使用しない。

- 座席を設置する際に前後左右 1.5～2m間隔をあげ、お互いが正面に座らないよう配慮する。

(2) 手洗い場所

大会参加者や関係者が手洗いをこまめに行えるよう、以下の対応を行ってください。

- 手洗い場にはポンプ型の液体または泡石鹸を用意する。
- 「手洗いは 30 秒以上」等の掲示をする。
- 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル(使い捨て)を用意する。
※ 布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにすること。
- アルコール消毒液を設置する。

(3) トイレ

トイレについても感染リスクが比較的高いと考えられることから、各専門部は、以下の対応を行ってください。

- 便器の蓋を閉めて汚物を流すよう表示する。
- 手洗い場にはポンプ式液体または泡石鹸を用意する。
- 「手洗いは 30 秒以上」等の掲示をする。
- 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル(使い捨て)を用意する。
※ 布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにすること。
- アルコール消毒液を設置する。

(4) 更衣室・ロッカールーム

大会会場で更衣室やロッカールームを使用する場合、3つの密が揃うため、感染リスクが比較的高くなります。各専門部は、これを踏まえ、更衣室・ロッカールームについて以下の準備を行ってください。

- 広さにはゆとりを持たせ、利用者同士が密になることを避けること。
- ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する利用者の数を制限する、別室を用意する、または外部にテントを設置する措置を講じる。
- 室内又はスペース内で複数の利用者が触れると考えられる場所については消毒する。
※ ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等
- 一日に同会場で複数試合を行う場合は、試合終了後に消毒する。
- 換気扇を常に回す、2つ以上のドア、窓を常時開放して換気を行う。

更衣室等利用者(参加チームを含む)の注意事項

- 利用者は必ずマスクを着用し、会話を最小限に留める。
- 利用者はロッカールームの滞在時間を短くするため着替えに限定する。
- 利用者はシャワーを交代で使用し、密集を避ける。(水泳競技 等)

(5) ベンチ

ベンチで間隔を空けて座れるよう、テント等で追加ベンチを設置してください。なお、暑熱対策上、屋外において、屋根なしで椅子を並べるのは不可とします。

一日に同会場で複数試合を行う場合は、試合終了毎にベンチの消毒を行ってください。

(6) 大会関係者対応(管理職や審判員、部員 等を含む)

大会関係者を会場内に入れるためには、運営エリアだけでなく入退場ゲート、観客席(体育館ギャラリーを含む)、コンコースにおいても感染防止対策が必要となります。以下の項目の実行が難

しいと判断された場合は、無観客試合としてください。

事前通達

大会関係者を会場内に入れる場合には、観戦エリアにおいて3つの密を避ける対応が求められます。以下の留意事項について、参加チーム及び大会関係者へ事前に周知を徹底してください。

- 体調の悪い人は来場を控える

※監督及び引率者においても体調が悪い場合は来場を控える。その場合、学校関係者から代理をたてることとする。(代理の職員は、学校長の承認のもと大会に参加する。健康チェックシートの提出を協力していただく。)

- 来場する際はマスクを着用する
- 大声での声援や大旗を使つての応援は行わない
- 場内ではそれぞれ2mの間隔を保ち、ハイタッチ、抱擁、肩を組むなどの行為は控える

試合当日

大会関係者を会場内に入れる場合には、以下の点に留意してください。

- 試合会場各所(入退場ゲート、トイレ等)にアルコール消毒液を設置する。
- 入場前に同行者名簿を提出してもらい、入場可否の確認を行う。
- 体調の悪い人への観戦自粛を促すアナウンスを徹底する。
- 場内アナウンス等で、上記「事前通達」事項のアナウンスを随時行い、守らない方には直接注意する。
- 注意しても改善されない場合は退場してもらうなどの措置を講じる。

各専門部長は、運営に関わる注意事項、チームへの依頼事項として以下の項目を参加チームに伝えてください。

- 試合前、試合後に相手チーム、審判団との握手は実施しない。
- 両チームベンチへの挨拶を実施しない。
- 円陣はしない。
- 得点時にハイタッチ、抱擁を行わない。
- ピッチ内でも咳エチケットを守り、つばを吐く、手鼻をかむなどの行為を行わない。
- 口に含んだ水を吐かない。
- ボトルを共有しない。
- 飲料用、暑熱対策、アイシング等については、事前に個人用を準備する。
※ ドリンクを冷やすためのクーラーボックスは使用しない。
- タオルを共有しない。
- 競技中、チームメイト、審判員と会話する際にも互いの距離についてしっかりと配慮する。
- ベンチではマスクを着用し、会話を控える。

※ 上述の伝達事項は、参加チームが大会参加にあたり留意すべき事項です。大会参加にあたって、各専門部から各チームの感染対策責任者に事前に伝達するようにしましょう。

(9) 大会参加者における留意点(ウォーミングアップ時を含む)

各専門部長は、大会参加者に対し、以下の留意点や遵守すべき内容を周知・徹底してください。

① 十分な距離の確保

全ての競技において、運動をしていない間も含め、感染予防の観点から、周囲の人と距離(2mが目安)を空けること。(介助者や誘導者の必要な場合を除く。)

ウォーミングアップ時も強度が高くなると呼気が激しくなるため、より一層距離を空ける必要がある。また、マスクをしていない場合には、十分な距離を空けるよう特に留意をする必要があること。

② 位置取り

前の人の呼気の影響を避けるため、可能であれば前後一直線に並ぶのではなく、並走する、あるいは斜め後方に位置取ること。

③ その他

ア 運動・スポーツ中に、唾や痰をはくことは行わないこと。

イ タオルの共用はしないこと。

ウ 飲食については、指定場所以外で行わず、周囲の人と距離をとって対面を避け、会話は控えめにする。また、同じトング等での大皿での取り分けや回し飲みはしないこと。

エ 飲みきれなかったスポーツドリンク等を指定場所以外(例えば走路上)に捨てないこと。

(10) 夏季における熱中症予防に向けた留意点

冬場でも気温が高くなる場面においては、各諸室の窓やドアの開放、参加者にマスク着用を義務化することなどにより、熱中症を発症するリスクが高まることから、感染拡大防止に向けた取組に併せて熱中症の予防も行う必要があります。P9記載の「スポーツ活動再開時の新型コロナウイルス感染症対策と熱中症予防について」を参照するとともに、政府が示す「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイントに基づく下記の点などに留意して各種活動を実施してください。

① マスクの着用

マスク(特に外気を取り込みにくいN95などのマスク)の着用時は、マスクを着用していない場合と比べると、心拍数や呼吸数、体感温度の上昇など、身体に負担がかかることがあるため、参加者に対してはこうしたリスクを周知するとともに、こまめな水分補給を心がけることを徹底してください。また、高温や多湿といった環境下では、屋外で人と十分な距離(少なくとも2m以上)が確保できる場合には、マスクを外しても構わない旨アナウンスをしてください。

(11) ゴミの廃棄方法

会場で発生したゴミを収集する際は、マスクや手袋を必ず着用してください。ゴミはビニール袋に入れて密閉して縛り、**各チームで持ち帰りください**。マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒してください。

(12) その他

これら(1)～(10)を実施しても感染リスクをゼロにすることはできません。各専門部及び参加チームは、その点を理解した上で、大会の実施や大会へ参加をしていただくとともに、関係者への周知を行ってください。

また、特に夏場においては、各諸室の窓、ドアの開放、参加者全員にマスク着用を義務化することにより、熱中症を発症するリスクが高まります。こまめな水分補給を心掛けましょう。

3. スポーツ活動再開時の新型コロナウイルス感染症対策と熱中症予防について (公益財団法人日本スポーツ協会資料より)

これから暑い日が続きます。これまでの新型コロナウイルス感染症対策とあわせて、熱中症予防対策が必要となります。特に、これまでの外出自粛の影響により、体力の低下や暑さに慣れていないこと、そして、マスクをつけてスポーツを行うと熱放散が妨げられることから、通常よりも熱中症のリスクが高くなりますので、より注意が必要となります。

スポーツ活動再開時の 新型コロナウイルス感染症対策と熱中症予防について

公益財団法人日本スポーツ協会 スポーツ医・科学委員会委員長 川原 貴

新型コロナウイルスの主な感染経路は、接触感染と飛沫感染だと考えられています。そのため、スポーツ活動時の対策としては、いわゆる三つの密を避けることはもちろん、次のことが重要です。

- 周囲の人と距離を空ける
- こまめに手洗いあるいはアルコール消毒を行う
- スポーツ活動に支障のない範囲でマスクを着用する



さらに、スポーツ活動再開時は、以下についての配慮が必要となります。

1) 体力低下と暑熱順化に配慮する※1

これまでの外出自粛の影響により体力が低下していること、暑さへ慣れていないことが想定されます。これらは熱中症発症のリスク要因となるため、スポーツ活動を再開する場合はくれぐれも無理のないよう慎重に、運動強度を調節し、適宜休憩をとり、適切な水分補給を心がけてください。

2) 日頃の体調管理と体調チェックを徹底する※2

体調が悪いと体温調節機能が低下し、熱中症につながります。日頃から睡眠、食事をしっかりと、生活リズムを整えるなど体調管理に配慮するとともに、スポーツ活動を行う前に必ず体調をチェックするように心がけてください。このことは、スポーツ活動中の熱中症予防はもちろん、新型コロナウイルス感染症対策にもつながります。

3) マスクを着用できない場合は

周囲の人との距離を十分に空ける※3

スポーツ活動中も飛沫の拡散を予防するため、できるだけマスクを着用することが望まれます。ただし、マスクをつけてスポーツを行うと呼吸がしづくなるため、これまでよりも運動強度を落として行うよう心がけてください。激しい運動を行うなどマスクが着用できない場合は、周囲の人との距離を十分に空けるよう心がけてください。

※1 スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック（日本スポーツ協会）

熱中症予防対策としては、基本的にはこれまでと同じです。スポーツによる熱中症事故は、適切に予防さえすれば防げるものです。熱中症予防の原則として「スポーツ活動中の熱中症予防5ヶ条」としてまとめています。

<https://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid/776.html#guide01>



※2 安全に屋内・屋外で運動・スポーツをするポイントとは？（スポーツ庁）

新型コロナウイルス感染症対策に関するスポーツを行う際のポイントとして、1) 運動やスポーツを始める前に行うこと（体調チェック）、2) 感染予防のための基本的な対応、3) 運動・スポーツの種類ごとの留意点がまとめられています。

<https://www.mext.go.jp/sports/content/000050039.pdf>



※3 スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン（日本スポーツ協会、日本障がい者スポーツ協会）

新型コロナウイルスへの感染防止策として、1) スポーツの種類に関わらず、スポーツをしていない間も含め、感染予防の観点から、周囲の人となるべく距離を空けること、2) 飲食については、周囲の人となるべく距離を取って対面を避け、会話は控えめにする、3) スポーツを行っていない間についてはマスクを着用すること（スポーツ活動中は可能な範囲でマスクを着用すること）などが定められています。

<https://www.japan-sports.or.jp/news/tabid/92.html?item=4158>



「N95」などの医療機関で使用される高機能マスクは通気性が悪く、スポーツ活動時の使用は勧められません。飛沫の拡散を予防することが目的となるため、普通のマスクで結構です。あるいは、マスクの代用としてネックゲイターやバンダナで顔を覆うなど工夫してください。疲れたらマスクを外して休憩を取りましょう。



3. 事後対応

万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取り扱いに十分注意しながら、大会参加者から取得した書面を、各専門部で**2週間**保管する。

各専門部は、大会終了後3日以内に、各チームの感染対策責任者に連絡を取り、具合の悪いチーム関係者、大会関係者がいないか確認してください。

万が一**大会終了後3日以内**に新型コロナウイルス感染症の感染が判明した場合は、保健所の指示に従うとともに、那覇地区中体連事務局にその旨ご報告ください。また、チームから競技会終了後7日以内に感染者発生が報告があった場合にも、同様にその旨那覇地区中体連事務局にご報告ください。※感染が疑われる事案が発生した場合は、健康チェックシートを事務局に提出してください。

(参考)各団体が発出する各種方針・ガイドライン等 発行元 方針・ガイドライン等

メディア(新聞社・アルバム業者)における注意事項

事前準備

大会の取材申請を事前に知ること、3つの密を避けるための取材者の人数確認が可能となり、取材者に対して事前に感染防止対策を周知できる。

- 試合会場の設備に合わせて、3つの密にならないように取材者の人数を事前に確認する。
 - 試合を取材するメディアに対しても、次に記載されている内容を遵守するよう事前に伝える。
- (ア) 以下の事項に該当する場合は自主的に来場を見合わせる
- 体調が良くない場合(例:発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合)
 - 同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる場合
 - 過去過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- (イ) マスクを常時着用する
- (ウ) 健康チェックシートを作成し入場時に提出する(当日受付で提出してもらう)
- (エ) 大会に参加する上で那覇地区中体連事務局が示す注意事項を遵守してもらう
- できるだけ短い時間で取材を終える。

事後対応

万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取り扱いに十分注意しながら、大会当日に参加チーム、メディア、運営関係者から提出された健康管理表を、1週間間保管します。

競技会終了後3日後、那覇地区中体連事務局に、体調の様子を連絡してください。

万が一**大会終了後7日以内**に新型コロナウイルス感染症の感染が判明した場合は、保健所の指示に従うとともに、那覇地区中体連事務局にその旨ご報告ください。また、御社から競技会終了後7日以内に感染者発生が報告があった場合にも、同様にその旨那覇地区中体連事務局にご報告ください。

以上